



CONTENTS

日本食物繊維学会の発足と食物繊維研究の国際交流 .....	1
日本食物繊維学会第9回学術集会プログラム .....	2
編集委員会より .....	8

## 日本食物繊維学会の発足と食物繊維研究の国際交流

日本食物繊維学会 理事長 池田義雄

今から50年前、Hipsleyによって食物繊維という用語が提唱された。この用語は当時、植物細胞壁を構成する非消化性成分を意味していた。しかしその後食物繊維の持つ消化管を介しての各種の生理機能が注目されるようになり、食物繊維の研究は定量法の開発とともに幅広い展開を示し、食物繊維の定義、更には食物繊維の有するエネルギー評価をどうすべきかが論議・検討されてきた。このような流れの中でわが国では、本学会の前身である食物繊維研究会（1989年発足）での研究活動が多く業績を生み、学会への道を開いた。

そこで本年が大変記念すべき年だという認識のもと、去る9月21日東京にて「日本食物繊維学会設立記念国際シンポジウム—最近の食物繊維研究と今後の展望—」が、大塚製薬KK、松谷工業KKの後援にて開催された。この場では、D. T. Gordon（ノースダコタ州立大学、米国）、J. R. Lupton（テキサスA & M大学、米国）、B. Burlingame（FAO栄養評価部門上席担当官、イタリア）、そして、G. Livesey（インディペンデント・ニュートリション・ロジック、英国）による講演があり、食物繊維の定義、エネルギー評価、そして疾病との関連など最新の食物繊維情報が提供された。

一方、このシンポジウムに先立ち本学会と日

本応用糖質科学会、日本健康栄養システム学会の共催にて、「国際食物繊維シンポジウム2004」が松谷工業KKの協賛にて9月17、18日の両日、大阪にて開催された。ここでは、本学会理事である山田先生よりルミナコイドについての報告があり、12か国に及んだ海外からの参加者に、食物繊維の定義に関するわが国からの新しい情報提供の出来たことは喜ばしい限りであった。

以上に加えて、1981年から4年毎に開催されている伝統あるVahounyシンポジウムが、NPO法人・日本国際生命科学協会（ILSI Japan）との共催で、9月27～29日にかけて「難消化性糖質国際シンポジウム」のテーマで東京にて開催されている。ここでも食物繊維研究に関して実りある国際交流の持たれたことは意義深いことであった。なおこの折、本学会は後援団体の1つとして参画した。そして特筆すべきは世話人の1人として大活躍された本学会理事の坂田先生が、これまでのVahounyシンポジウムへの多大な貢献が認められ、荣誉あるVahounyメダルを授与されたことである。

終りに、本年を「食物繊維の年」(the year of dietary fiber)として位置づけ、これを契機に国際的な視野での食物繊維研究の更なる進展と、会員皆様方のご活躍を祈念する。

# 第9回学術集会プログラム

会場 千葉大学（千葉市）  
会長 真田宏夫（千葉大学教授）

## 1. 行事日程

### 11月12日（金）

- 9:30～11:30 一般講演発表
- 11:30～13:00 昼 食
- 13:00～14:00 評 議 員 会・総 会
- 14:00～17:00 シンポジウム I 食物繊維・ルミナコイドと生体防御
- 17:30～19:00 懇 親 会（けやき会館内）

### 11月13日（土）

- 9:30～11:50 一般講演発表
- 11:50～13:00 昼 食
- 13:00～16:10 シンポジウム II 難消化性糖質をめぐる新しい話題
- 16:30～17:00 奨励賞授与式

## 2. 参加者への御案内

- 1) 学術集会及び総会受付は会場（けやき会館1階ホール）入口付近で行ないます。受付は9時から行います。
- 2) 参加費は正会員3,000円、学生会員1,500円、非会員4,000円です。
- 3) 呼び出しは特別な場合以外は行いません。開催期間中会館2階にクロークを設置します。
- 4) 昼食は大学内あるいは近くレストランをご利用下さい。
- 5) 懇親会を第1日目12日（金）シンポジウム終了後にけやき会館1階のレストランで行います。是非ご参加下さい（会費4,000円を当日頂きます）。
- 6) 会場への交通手段と周辺地図については、以下の交通案内と右の地図をご覧ください。

## 交通案内

- ・東京駅より総武線で約50分、JR稲毛駅で各駅停車に乗り換え、次のJR西千葉駅で下車、北口から徒歩約7分。
- ・京成千葉線みどり台下車、徒歩約6分

## 会場周辺地図



連絡先：日本食物繊維学会 第9回学術集会事務局

〒271-8510

千葉県松戸市松戸648

千葉大学園芸学部生物生産科学科 食品栄養学研究室内

江頭祐嘉合または真田宏夫

TEL:047-308-8861

FAX: 047-308-8859

## 国際食物繊維シンポジウム2004大阪にて開催される

巻頭頁に紹介がありましたように、2004年9月17-18日に大阪にて上記シンポジウムが開催されました。セッション1では、「食物繊維の定義、分析方法、エネルギー値」について、セッション2では、「食物繊維のエネルギー評価」について、セッション3では、「食物繊維の生理機能」について、そして最後のセッション4では「食品成分としての食物繊維」について講演、討論がなされました。世界で活躍している食物繊維研究者、行政機関や企業の責任者が一同に介して議論が日本で行われたことは、日本食物繊維学会発足の年として意義深いものであったと思います。

なお、本シンポジウムの内容についてはプロシーディングが作成される予定です。

# 一般講演プログラム

11月12日（金）9:30-11:30

時刻	演題番号	演 題
座長 : 早川享志(岐阜大学)・青江誠一郎(大妻女子大学)		
9:30	1	ペクチン, おから食物繊維ならびに食物繊維様物質がラットの小腸粘膜の消化酵素活性と形態に及ぼす影響 ○小貫順子 <sup>1</sup> , 加藤涼子 <sup>1</sup> , 仲麻梨子 <sup>1</sup> , 中山陽子 <sup>1</sup> , 山本恭子 <sup>1</sup> , 今井智恵子 <sup>2</sup> , 山田和彦 <sup>2</sup> , 桐山修八 <sup>1</sup> , 青江誠一郎 <sup>1</sup> , 池上幸江 <sup>1</sup> (大妻女子大学 <sup>1</sup> , 国立健康・栄養研 <sup>2</sup> )
9:50	2	ビブリオ属SUN53菌による小分子アルギン酸分解物の二糖類水解酵素に対する阻害効果とその機序 ○安藝真里子, 中村禎子, 上田成一, 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大・院・人間健康科学研究科)
10:10	3	ヒト及びラットにおけるショ糖投与による血糖上昇に対する桑葉抽出物の抑制効果 ○中村まり子, 中村禎子, 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大学・院・人間健康科学研究科)
10:30	4	発芽玄米糠の摂取が食後の血糖上昇に及ぼす影響 ○伊藤幸彦 <sup>1</sup> , 松本尚二 <sup>2</sup> , 清水花林 <sup>2</sup> , 水口 彩 <sup>1</sup> , 喜瀬光男 <sup>1</sup> , 速水耕介 <sup>1</sup> , 関泰一郎 <sup>2</sup> , 有賀豊彦 <sup>2</sup> (ファンケル中研 <sup>1</sup> , 日大・生資科・農化 <sup>2</sup> )
10:50	5	ビートファイバーによる血清コレステロール濃度低下作用の機構 ○岸田太郎, 長本 学, 撰 和男, 大賀浩史, 水重貴文, 海老原清 (愛媛大・農・栄養科学)
11:10	6	重合度の異なるイヌリンの食物繊維としての効果 ○寺部 茜 <sup>1</sup> , 三嶋 智之 <sup>2</sup> , 柘植 治人 <sup>1, 3</sup> , 早川 享志 <sup>1</sup> , 和田 正 <sup>4</sup> (岐阜大農 <sup>1</sup> , 岐阜大連合農学 <sup>2</sup> , くらしき作陽大食文化 <sup>3</sup> , フジ日本精糖(株) <sup>4</sup> )

11月13日（土）9:30-11:50

時刻	演題番号	演 題
座長 : 和田政裕 (城西大学) ・江頭祐嘉合 (千葉大学)		
9:30	7	24時間呼気水素ガス試験に基づいた各種食物繊維素材のエネルギー評価の有効性 ○中村禎子, 岡部智実, 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大学・院・人間健康科学研究科)
9:50	8	大麦若葉末の便通に及ぼす影響 ○池口主弥 <sup>1</sup> , 小林正和 <sup>1</sup> , 伊藤 聖 <sup>1</sup> , 有浦由紀 <sup>1</sup> , 高垣欣也 <sup>1</sup> , 石橋千和 <sup>2</sup> , 稲永亜紀子 <sup>3</sup> , 片山 (須川) 洋子 <sup>3*</sup> (株東洋新薬 <sup>1</sup> , 石橋整形外科 <sup>2</sup> , 福岡女子大 <sup>3</sup> , 現: 岐阜女子大*)
10:10	9	ガラクトオリゴ糖含有清涼飲料水の成人便秘自覚者への便通・便性及び糞便内菌叢改善効果について ○渡辺 篤 <sup>1</sup> , 高山理枝 <sup>2</sup> , 岡部敬一郎 <sup>1,2</sup> , 山田純子 <sup>3</sup> , 栃久保修 <sup>4</sup> (株アトバンス・常菌研 <sup>1</sup> , 株アトバンス・DDS <sup>2</sup> , 東邦大・医・大森病院 <sup>3</sup> , 横浜市大・医・予防医学 <sup>4</sup> )
10:30	10	難消化性二糖Difructose Anhydride IIIによる鉄吸収促進機構の検討 ○小野島 聡, 鈴木 卓弥, 原 博 (北大院・農・応生科)
10:50	11	サイリウムによるビスフェノールAの吸収抑制作用 ○鈴木 誠, 辻 啓介 (兵庫県立大院・環境人間)
11:10	12	直鎖β-1,3-グルカンのラット腸内菌による分解機構と生理作用発現との関係 ○清水 純 <sup>1</sup> , 真野 博 <sup>1</sup> , 和田政裕 <sup>1</sup> , 岡田早苗 <sup>2</sup> , 田所忠弘 <sup>2</sup> , 印南 敏 <sup>2</sup> (城西大・薬 <sup>1</sup> , 東農大・応生科 <sup>2</sup> )
11:30	13	Oligosaccharide Fragments from Corn Bran Hemicellulose prevent D-Galactosamine-induced Hepatitis in Rats. ○Xin Geng, Xiaokun Wang, Yukari Egashira and Hiroo Sanada (Graduate School of Science and Technology, Chiba Univ.)

# シンポジウムプログラム

11月12日（金）14:00-17:00

## I. 食物繊維・ルミナコイドと生体防御

時刻	演題番号	演 題
座長 : 田所忠弘（東京農業大学）・真田宏夫（千葉大学）		
14:00	1	オリゴ糖摂取による腸内環境変化と腸管免疫応答の調節 ○細野 朗, 上野川修一 (日大・生資科)
14:45	2	酵素処理米糠ヘミセルロースの免疫能 ○三浦富智 <sup>1</sup> , 加藤陽治 <sup>2</sup> (弘前大・医 <sup>1</sup> , 弘前大・教育 <sup>2</sup> )
15:30	3	ニゲロオリゴ糖による免疫機能の調節 ○室崎伸二（武田食品工業）
16:15	4	グルコサミンの抗炎症効果と抗血栓効果 ○長岡 功 <sup>1</sup> , 華 見 <sup>1</sup> , 勝呂 栞 <sup>2</sup> , 坂本廣司 <sup>2</sup> (順天堂大・医 <sup>1</sup> , 甲陽ケミカル <sup>2</sup> )

11月13日（土）13:00-16:10

## II. 難消化性糖質をめぐる新しい話題

時刻	演題番号	演 題
座長 : 池上幸江（大妻女子大学）・山田和彦（国立健康・栄養研究所）		
13:00	1	ツイントースのヒトに対する生理機能と食品への応用 ○重松典宏 <sup>1</sup> , 富田響子 <sup>1</sup> , 蜂谷幸子 <sup>1</sup> , 奥原康英 <sup>1</sup> , 田村亜紀子 <sup>1</sup> , 原 博 <sup>2</sup> (ファンケル中央研究所 <sup>1</sup> , 北大院・農 <sup>2</sup> )
13:45	2	環状四糖による脂肪吸収の抑制作用 ○奥 和之、西本友之、阿賀 創、久保田倫夫、福田恵温、栗本雅司 (株林原生物化学研究所)
14:30	3	キシログルカン—構造および生物学的機能— ○白川真由美、大和谷和彦 (大日本製薬株式会社)
15:15	4	Resistant Starch — a unique prebiotic fibre. ○Ian L Brown (National Starch and Chemical Company)

# 講演者，討論者，座長へのお願い

## 1) 講演

講演時間：シンポジウム（発表40分，討論5分）

一般講演（発表15分，討論5分）

発表は液晶プロジェクター，スライドプロジェクター，OHPを用意します。液晶プロジェクターについては，Windows(XP, 2000, 98)のPower Pointの場合，CD，FD，フラッシュメモリとして受け付けます。Macintoshの場合，またはPower Point以外の場合は不具合を避けるため，パソコンごとご持参いただくと助かります。

CD, FD, スライド, OHPシートなどは発表の20分前までに発表受付に提出して下さい。また，予め11月10日までにメールに添付してお送りいただければ当方で入力しておきます。

## 2) 討論

質問，討論のある場合は，はじめに所属と氏名を述べて下さい。

## 3) 座長へのお願い

運営の都合上，当該時刻の20分前に受付に出席している旨をお知らせ下さい。

また，発表時間の厳守に心がけて下さい。

## 日本食物繊維学会設立記念 国際シンポジウム開催報告

2004年9月21日に独立行政法人国立健康・栄養研究所にて，本学会主催により上記シンポジウムが開催されました。テーマは「最近の食物繊維研究と今後の展望」についてです。D. T. Gordon先生（ノースダコタ州立大学）と奥 恒行先生（県立長崎シーボルト大）のコーディネーターのもと，以下の四人の先生方の講演がありました。

食物繊維とガン	Dr. J. R. Lupton（テキサスA&M大）
食物繊維の定義	Dr. B. Burlingame（FAO栄養評価部門上席担当官）
食物繊維のエネルギー	Dr. G. Livesey（インディペンデントニュートリションロジック）
最近の食物繊維研究—総括	Dr. D. T. Gordon（ノースダコタ州立大）

最近の食物繊維研究の総括ができたばかりでなく今後の食物繊維研究の方向性について示唆に富んだ内容でありました。日本の食物繊維研究の成果も世界に向けて発信していかなければならないと感じたシンポジウムでした。（青江）

## 編集委員会より

本年11月12, 13両日に渡り千葉大学・真田宏夫教授を集会長に第9回学術集会在開催されます。今回は食物繊維・ルミナコイドと生体防御, 難消化性糖質をめぐる新しい話題に関するシンポジウムが企画されています。今年には理事長の巻頭頁にありましたように食物繊維研究の国際シンポジウムがいくつも開催されたThe Year of Dietary Fiberです。千葉大学で開催される学術集会上にも多数の食物繊維・ルミナコイド研究者が集まり活発な討論が行われることを期待します。(青江)

会員状況：平成16年10月15日現在

●正会員	222名	●学生会員	7名	●賛助会員	43社
●団体会員	5団体	●名誉会員	8名		

### 【賛助会員】

太陽化学株式会社  
大日本製薬株式会社  
ダニスコジャパン株式会社  
伊那食品工業株式会社  
日本ケログ株式会社  
松谷化学工業株式会社  
株式会社カイゲン  
日本甜菜製糖株式会社  
旭化成株式会社  
清水化学株式会社  
昭和産業株式会社  
明治製菓株式会社  
アーラフーズ イングレディエントジャパン株式会社  
日本エヌエスシー株式会社  
セレスタージャパン株式会社

株式会社荻野商店  
日本食品化工株式会社  
大塚製薬株式会社  
財団法人日本こんにやく協会  
株式会社林原生物化学研究所  
サントリー株式会社  
富士バイオ株式会社  
武田キリン食品株式会社  
株式会社横浜国際バイオ研究所  
日清食品株式会社  
朝日食品工業株式会社  
大和薬品株式会社  
コロイトナチュレルジャパン株式会社  
株式会社大麦発酵研究所

全国精麦工業協同組合連合会  
佐合食品工業株式会社  
雪印乳業株式会社  
株式会社はくばく  
社団法人菓子総合技術センター  
大和化成株式会社  
日清ファルマ株式会社  
日本バイオコン株式会社  
第一出版株式会社  
三和澱粉工業株式会社  
フィプロ製薬株式会社  
株式会社東洋新薬  
ロケットジャパン株式会社  
フジ日本製糖株式会社

(順不同)



日本食物繊維学会

Newsletter No.18

発行日 : 2004年10月25日  
発行人 : 日本食物繊維学会理事長 池田義雄  
編集人 : 奥 恒行, 青江誠一郎  
印刷所 : 江戸クリエート株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-7

事務局 : 日本食物繊維学会事務局  
〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1  
独立行政法人 国立健康・栄養研究所  
食品表示分析・規格研究部気付  
TEL : 03-3203-5602, FAX:03-3205-6549  
<http://jdf.umin.ne.jp>